

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ラインテープ「美」
 会社名 富士工業株式会社
 住所 〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目10番12号
 電話番号 03-6859-2213
 FAX番号 03-6859-2215

2. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

構成

ハードコート(約8 μ m)
PETフィルム(50 μ m)
接着層(約15 μ m)
着色印刷層(約3~6 μ m)
白PETフィルム(50 μ m)
粘着層(約30 μ m)
剥離紙(約160 μ m)

※「白」は着色印刷層がありません

化学名又は一般名	含有量 (%)	CAS登録番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ポリエチレンテレフタレート	約35-39	25038-59-9	7-1022
セルロース	約26-30	65996-61-4	-
アクリル樹脂	約15-19	非公開	非公開
ポリエチレン	約10-14	9002-88-4	6-1
硫酸バリウム	約3-5	7727-43-7	1-89
カーボンブラック	<1	1333-86-4	-
その他	<3	非公開	非公開

危険有害成分

該当無し

3. 危険有害性の要約 最重要危険有害性及び影響

有害性 学的危険性

通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さい。物理的及び化学的通常の状態では危険な反応や火災爆発を起こすことは無いが、消防法で指定可燃物合成樹脂類であり、着火源があれば燃える。

特定の危険有害性

通常の状態では特に有害性は無い。燃焼などの高温でアセトアルデヒド、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する可能性がある。

分類の名称 (分類基準は日本方式)

消防法 指定可燃物

4. 応急措置

吸入した場合 皮膚に付着した場合

成分は有害となりにくいですが、異常のある場合は医師の診断を受ける。
 刺激があれば石鹸で洗う。万が一高温で溶融したポリマーが付着した場合は、冷水で十分に冷やす。皮膚に付着したポリマーは無理に剥さない。
 不快感が残る場合は医師の診断を受ける。

目に入った場合

通常の状態では特に有害性は無い。燃焼などの高温でアセトアルデヒド、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する可能性がある。

飲み込んだ場合

出来るだけ吐き出させ、異常がある場合は医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤 特有の危険有害性 特有の消化方法 消化を行う者の保護

水、炭酸ガス、粉末等の一般消火剤
 不完全燃焼した場合、アセトアルデヒドや一酸化炭素等の有害ガスを発生する。
 一般的消化方法を用いて、消火活動は風上から行う。
 燃焼時、有毒ガスを含む恐れがあるため、消火作業を行う場合自給式の呼吸装置等の装備が望ましい。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

フィルム先端で皮膚等を傷つけたり、転倒したりする恐れがあるので、速やかに回収する。

環境に対する注意事項

環境への影響は小さいが、長時間残留すると考えられるので環境中に廃棄しない。

回収方法

フィルム屑の場合、かき集めるか掃除機で集めて廃棄又は焼却する。
 フィルム屑を回収する際は、火花を発生しない安全な器具を使用する。

<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p> <p>取扱い 技術的対策</p> <p>注意事項</p> <p>安全取扱い注意事項</p> <p>保管 適切な保管場所</p> <p>安全な容器包装材料</p>	<p>加工中に静電気を発生することがあるので、静電気除去装置を必要な場所に適宜設置する。溶剤等の引火による火災発生を起こすことがあるので、周辺では引火性の溶剤等を使用しない。引火性の溶剤等を使用する時は特に局所排気、全体換気を確実に行う。静電気による放電が起きないように、生じた静電気は静電除去装置等により積極的に取り除く。フィルム先端が鋭くなり皮膚等を傷つける恐れがあるので、保護具等を着用する。粉塵発生などを伴う作業をするときは、局所排気・全体排気を行う。</p> <p>人が転倒しないように歩行域からフィルムを取り除くよう留意する。また、ロール状物は重量物であるため落下に注意する。</p> <p>消防法指定可燃物であり、市町村の条例に従う（消火設備、屋内貯蔵所、取扱所など）。重量物の為、荷崩れ・落下を防止する。強酸化剤、火気及び発火源から遠ざけて常温保管する。</p> <p>紙、ポリエチレンフィルム、段ボール包装</p>
<p>8. 暴露防止及び保護措置</p> <p>設備対策</p> <p>保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 目の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>粉砕など粉塵が発生する作業を行う場合には、全体換気、局所排気装置のほか、静電気による粉塵爆発の危険性があるので、静電除去装置を設置する。</p> <p>粉塵が多い場合は防塵マスクの着用が望ましい。切り口が鋭利なので、保護手袋使用が望ましい。フィルムを粉砕する作業を行う場合、保護眼鏡使用が望ましい。フィルム走行を伴う作業等では、保護衣を着用する。</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質</p> <p>外観など</p> <p>pH</p> <p>融点 (°C)</p> <p>引火点 (°C)</p> <p>発火点 (°C)</p> <p>分解温度</p> <p>爆発限界</p> <p>密度 (g / cm³)</p> <p>溶解度 (水に対して)</p>	<p>フィルム状固体、無臭、有色</p> <p>該当しない</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>上限；-%、下限；-%</p> <p>データ無し</p> <p>不溶</p>
<p>10. 安定性及び反応性</p> <p>安定性</p> <p>反応性</p> <p>避けるべき条件</p> <p>避けるべき材料</p> <p>危険有害な分解生成物</p>	<p>常温では安定である。</p> <p>熔融などの高温では一部熱分解する。強酸化剤と反応する危険性がある。</p> <p>高熱</p> <p>強酸化剤</p> <p>燃焼・熔融などの高温でアセトアルデヒド、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する可能性がある。</p>
<p>11. 有害性情報</p> <p>急性毒性 (50%致死量含む)</p> <p>皮膚腐食性・刺激性</p> <p>眼に対する重篤な損傷・危険性</p> <p>呼吸器感作性又は皮膚感作性</p> <p>生殖細胞変異原性</p> <p>発がん性</p> <p>生殖毒性</p> <p>特定標的臓器・全身毒性</p> <p>呼吸性呼吸器有害性</p>	<p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し (単回暴露及び反復暴露共に。)</p> <p>データ無し</p>
<p>12. 環境影響情報</p> <p>残留性・分解性</p> <p>生体蓄積性</p> <p>土壌中の移動性</p>	<p>データ無し (環境中に長期間残留すると考えられる。)</p> <p>データ無し</p> <p>データ無し</p>
<p>13. 廃棄上の注意 残余廃棄物</p> <p>焼却</p> <p>埋立</p> <p>汚染容器及び包装</p>	<p>大気汚染防止法等に適合した焼却設備を用いて焼却する。</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って、公認の産業廃棄物処理業者又は地方公共団体がその処理を行っている場合はその団体に委託して処理する。残余廃棄物と同様。</p>
<p>14. 輸送上の注意</p> <p>国連番号</p> <p>国連分類</p> <p>輸送の特定の安全対策及び条件</p>	<p>国連の分類基準に該当しない。</p> <p>国連の分類基準に該当しない。</p> <p>重量物の為、転倒・落下がないように積込み荷崩れ防止を確実にを行う。</p>
<p>15. 適用法令</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p> <p>化審法</p> <p>PRTR物質</p> <p>消防法</p>	<p>産業廃棄物、廃プラスチック類</p> <p>組成及び成分情報の項参照</p> <p>該当無し</p> <p>指定可燃物 (合成樹脂類) (3000kg)</p>



16. その他の情報

参考

既存化学物質安全性点検データ

記載内容の取り扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることもあります。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特別の取り扱いをする場合は用途に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。

初版：2010年6月3日